

## トラックづくりのすべてにわたって、環境への配慮を徹底。



### ■ トヨタがめざす「トータルクリーン」

トヨタは「トータルクリーン」を基本理念に、環境に配慮したクルマづくりを進めています。生産から廃棄にいたるトータルライフの視点により、環境への取り組みのひとつひとつをすべての過程で連携。さまざまな環境目標をバランスを取りながら達成することで、総合的に環境性能の向上を図り、クリーンなクルマづくりをめざします。

### ■ 地球温暖化対策の実施

- 温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>排出量の低減をめざして、軽量・高効率なエンジンを搭載。また、優れた低燃費を達成しています。
- エアコンの冷媒充填量を低減しています。

### ■ 環境負荷物質の削減

鉛、水銀、カドミウム、六価クロムを削減し、業界目標を達成しています。

### ■ VOC<sup>※2</sup>の低減を推進しています。

内装部品の素材、加工法、接着剤の見直しにより、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエンなどの揮発性有機化合物(VOC)の発生量を抑制。車室内の臭いや刺激臭を軽減とともに、厚生労働省が定めている「室内濃度指針値」<sup>※3</sup>を下回るレベルとし、業界自主目標を達成しています。

■トヨタではLCAにより相対的な環境メリットを確認することを目的としているため、実施結果は指数で示しています。

### トヨタ ダイナ環境仕様

車両仕様	車両		ディーゼル車 DPR-II搭載車		
	エンジン	型式	N04C-WD		
	総排気量 (L)	1.5トン超2.0トン以下	4.009		
	使用燃料	2.0トン超3.0トン以下	軽油		
駆動装置	駆動方式		2WD	4WD	
	変速機		6MT	6AT	5MT
CO <sub>2</sub> 排出量 (g/km)  車両総重量 以下	3.5トン 超7.5トン	1.5トン超2.0トン以下	227	227	244
		2.0トン超3.0トン以下	244	244	264
環境情報	適合規制		平成28年(ポスト・ポスト新長期)排出ガス規制 <sup>※6</sup>		
	WHDCモード認定レベル (g/kWh)	NOx	0.4		
		NMHC	0.15		
		P M	0.007		
車外騒音	規制適合(規制値)		平成28年騒音規制 <sup>※7</sup> フェーズ1(加速騒音:77dB-A(4WD車は78dB-A))		
冷媒の種類	HFC-134a/使用量(g)		400		
環境負荷物質削減	鉛		自工会2006年自主目標達成(1996年時点の1/10以下 <sup>※8</sup> )		
	水銀		自工会自主目標達成(2005年1月以降使用禁止 <sup>※9</sup> )		
	カドミウム		自工会自主目標達成(2007年1月以降使用禁止)		
	六価クロム		自工会自主目標達成(2008年1月以降使用禁止)		
車室内VOC			自工会自主目標達成(厚生労働省室内濃度指針値 <sup>※3</sup> 以下)		
リサイクル関係	リサイクルしやすい 材料(TSOP)を使用した部品 樹脂、ゴム部品への材料表示		インストルメントパネル、メータークラスター、グローブボックスドア、 フロアコンソール、クオータリムボードなど		
			あり		

※1. Eco-VAS[エコバス] : Eco-Vehicle Assessment System。車両開発責任者が企画段階で生産、使用、廃棄にいたるLCA(ライフサイクルアセスメント)の考え方を踏まえた環境目標値を設定。全開発プロセスを通じて目標達成状況をフォローして、確実な達成を図る総合的な環境評価システムです。※2. VOC : Volatile Organic Compounds(揮発性有機化合物)

※3. 厚生労働省が2002年1月に定めた指定物質で自動車に関する物質の指針値。 ※4. LCA : Life Cycle Assessment。資源採取～廃棄・リサイクルまでの各段階で、クルマが環境に与える要因を定量化し、総合評価する手法で、ISO14040シリーズで国際標準化されています。 ※5. TSOP : Toyota Super Olefin Polymer ※6. WHDCモード

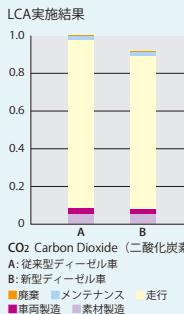
※7. 技術的最大許容質量が3.5トンを超える車のもので最高出力が135kW以下のもの。 ※8. 1996年乗用車の業界平均1,850g(バッテリーを除く)。

※9. 交通安全の観点で使用する部品(ナビゲーション等の液晶ディスプレイ、コンビネーションメーター、ディスチャージランプ、室内蛍光灯)を除く。

### ■ LCA

#### (ライフサイクルアセスメント)<sup>※4</sup>の実施

走行段階だけでなく、トラックの生産・使用から最終的に廃棄するまでの全ライフサイクルで、環境への負荷を把握するのがLCA(ライフサイクルアセスメント)。トヨタでは、その観点から、排出するCO<sub>2</sub>やその他の大気汚染物質の総量を従来型車に比べて低減しています。



### ■ 都市環境のクリーン化に配慮

ディーゼル車は新高性能触媒DPR-IIの採用により、排出ガスのクリーン化を推進。その結果、「平成28年(ポスト・ポスト新長期)排出ガス規制」に適合しています。

### ■ リサイクル性の向上へ

インストルメントパネルやメータークラスター、グローブボックスドアなど内装部品にリサイクル性に優れた樹脂TSOP<sup>※5</sup>を使用しています。